

令和6年度 野里保育園 自己評価表

1 施設の概要

事業所名	社会福祉法人 野里福祉会 野里保育園		
所在地	鹿児島県鹿屋市上野町 4776-3		
電話番号	0994-42-3577		
評価実施日	令和7年3月31日	評価期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

【 A：よくできた B：まあまあできた C：あまりできていない D：全くできていない 】

1 保育の理念・目標・計画など

内 容	評価	現状・今後の取組
① 保育者一人一人が園の保育方針を理解している。	A	特に2歳児以下の発達段階の違いに対して、園児一人ひとりに対する細かな支援に取り組んでいきたい。
② 園の保育方針や目標に基づいて、クラスの年間保育目標を立てている。	A	
③ 担任間で話し合っ、保育目標を立てている。	A	
④ 各年齢の発達段階に合わせた指導計画は、一人一人の発達にも留意している。	B	
⑤ 自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている。	B	

2 保育の内容

内 容	評価	現状・今後の取組
① 保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう配慮している。	A	集団保育における活動実践に追われる傾向にある。 ゆとりある保育環境を整え、園児一人ひとりに向き合う時間の確保に努めたい。
② 子ども一人一人の思いを受け止め、その思いをできるだけ実現させようと努めている。	B	
③ 子どもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている。	A	
④ 身体的、精神的、情緒的発育等、多面的に子どもの状態を把握している。	B	
⑤ 保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室づくりを心がけている。	B	
⑥ 行事の計画や実施にあたっては、以前の反省や評価を反映している。	A	
⑦ 特定の子どもを特別扱いしていない。	A	

3 保育園の組織・役割分担

内 容	評価	現状・今後の取組
① 職場内で報告や連絡、相談など連携がとれている。	B	令和6年度は ・不適切保育に陥らないための取組 ・気がかりな子どもとともに自立を育む保育など研修の充実に取り組んできた。
② 研修への参加や専門書により知識や技能の向上に取り組んでいる。	C	
③ 職場の中で各職員が自分の役割を自覚している。	B	
④ 保育を良くしたり、業務の効率化を図ったりするような提案が出されている。	B	
⑤ 各職員は、責任感を持って仕事に向き合っている。	A	

⑥ 各職員が職員会などで必要と思う質問や意見を発言することができている。	B	令和7年度は、キャリアアップ研修への参加を促し、保育スキルの向上に取り組みたい。
⑦ 研修で得た内容・成果は他の職員に伝達され、保育に生かされている。	B	
⑧ 火災・地震・不審者等に係る訓練に取り組んでいる。	A	

4 家庭・地域社会

内 容	評価	現状・今後の取組
① 保護者に対して、丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心がけている。	B	保護者との情報共有や発信、共通理解に努めている。 一方、他園や療育施設等の連携や情報取得、活用が不足しており、より一層、情報収集を進めながら、様々な見直し改善に取り組んでいきたい。
② 送迎時に、子どもの様子などを保護者に伝えている。	A	
③ 家庭への連絡など連携を図るように努めている。	A	
④ 家庭環境及び食事習慣など、園以外での子どもの状態を把握している。	B	
⑤ 地域と連携し、行事参画や情報発信に取り組んでいる。	B	
⑥ 他園や関係機関との連携を図り、情報交換など有効な対応に努めている。	C	
⑦ 保護者により対応を変えていない。	A	

5 事務管理・運用

内 容	評価	現状・今後の取組
① 園児一人一人の個人記録簿は、適切に記載し整理や保管ができている。	A	簿冊、個人情報など適切に管理している。
② 園内で知りえた事項や個人情報等に対して、守秘義務は徹底できている。	A	
③ 金銭や物品等を取り扱う場合、適正かつ適切に処理や管理ができている。	A	

6 食育

内 容	評価	現状・今後の取組
① 食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	A	食育に関する毎月の会議、ブログ等での保護者への発信など、適切に実施している。
② 栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている。	B	
③ アレルギー疾患等の子どもに対し、保護者との連携を図り適切な対応を行っている。	A	

7 総合所見

記入者 施設長 深水俊彦

記入日 令和7年3月31日

発達段階の異なる園児たちを、一人ひとりの特性に応じて、適切かつきめ細やかに寄り添う保育が求められている。特に2歳児以下のクラスでは、国の基準より多い職員を配置し、安全面に限らず、園児の自立を支援する取り組みに力を入れたい。

また、野里保育園では、令和7年6月から新たに増設した保育室を活用し、ゆとりある空間の中で、園児それぞれが主体的に自らが考える活動（遊び）が行えるよう、意図を持った自由保育の仕掛けも工夫しながら、環境の整備に取り組んでいきたい。